



特 別
A5
6590
21



土佐城東

此君堂可水
浩養軒五禽
編

人日出賀筵

微笑仙文臺関

清水菴柳齋
櫻庵 和光
補

人日出賀筵

南薰閣於大港之所の社以
是合雅房と盧源文臺此主
と定人日出賀筵
閑々實了信あれを徳と自
然乃毛授あらんといふの案案
とてあてられし

七種やうに案もいふ巖し物

魯松弁



冥加の坐すりしふ二見形
 西乃あそ和々風此際之々
 雲が影鶴この毛乃々々
 飯の煮く外皆酒下造る茶
 事此自立も能き法味下
 兼題の月乃詩之々々
 夕々々の風がは相り如仙
 遠索は下佛之候ふ麻の巻
 是全坊
 可水
 柗齋
 和光
 池塘
 撫竹
 鶴仙
 素遊坊

任家ふりり山の奥まを
 弁當と持よ及びぬ小高し
 矣まよ入々々を撰ます
 さりとうと麻てのそ夜じ境ら
 辻宮あふらうのさまの神
 此まのう清きま上も清きま
 腰あれもくれ一茶ちるに
 頰杖よあつら月をお詠免
 吐月
 波英
 后樂
 自若
 如泉
 謙齋
 多樂
 破竹

侍り衣帯の佳来好句
 吟あり市由と案後及意く
 甚屋風子嘯一竹新り
 散葉、利く持為もむ心
 小夢も今と幸と志とら水
 蕭々人救調子 暗い海
 袴の非の留 指折るゝ
 其心来はし花... 小鳥好
 龍沙 知翠 南江 一止坊 花仙 其松 麥二 其醉

思ふやそよりひく時う絲
 作りたるよふか及盤本まきと
 憐と借と色一煉 掃
 温ふ江意るやじと 騾ら水々
 虎のきもあけいじう一海
 腥ひ名を跡うぬる 蝟美所
 誰も我江折る 根交士の口
 さうとそとあひ硯の墨と花と
 龜濤 深志 里伯 清波 五禽 鳥旭 文友 克己

伊の橋ひきし新比出なき
 十六夜とあけ少一の宮もあり
 細きもとそ巻むし一の橋
 あれる江流のほろ只ひし
 まつたれぬ昆布汁の味
 筆継り出らむし東松記
 退居のふ猫の中へ居る
 風の息乃そよ〜垣外傳のふて
 南枝
 遊耳
 其春
 友之
 其水
 松甫
 曾照
 蘭石

思ひ立ちし〜英〜秋の月
 曳明〜と勢を揚下結志の者
 燃志〜於空のた〜し好り
 銅槍の売てきたる尾屋根
 穀ひほる繪馬の勢
 山ほとゝ木後附丁安りあれ
 替り〜と名入此すあり
 花の宴坐愛せし〜と変て
 松二
 延之
 如杏
 松英
 遊松
 其竜
 松苓
 鳳洲

埃りもまぬきふちを果さ

可然

^三舞ふ玉珠に並え居り風中

撫石

侍りまじり水と乳のくまを子

璞齋

右百韻一略

祝吟

文堂や扇とともすはる久様

阿又行脚
破竹

教は小依信を是問文の徳と徳と秘せんとい社の名も
連子傳一今日の實甚だ経いといれ

のこまねのまに開くやこいん取

執筆
可水

平生徳を孤あしぬ梅の月夜うれ

同副
五倉

二人形宿くやま川れおも今

客對
和光

咲梅や小ちも下ふらやひは道

坐配
池塘

徳言く開くや松了操うを

書記
自若

と川もよやうもに頂く道の恩

助夏
物亦

名録 當季吟

雪や障子の穴へ日まこころ水

不紫芳
破竹

旅の舟に梅は白ひや初まぬ

不紫芳
風柳

撰む日もあやうしとよ 種子蔣 一宮世 梅名

白蓮社中

福香軒 法受とひくあした年 カイヤ 蘭名

降雪ふと筆の系や小松 川 十市 里伯

手を伸て飯鴨買りん松の点 下田 亀清

と川 鴉鳴や新く海と山 カイヤ 松英

市へ出たるてあさきさる茶臼 東海林 璞高

童部のも伸しものりる庭寔 東海林 松二

談言社中

葉不碎く福のねやと川 埴 カイヤ 可然

刺塔と燗の帯ときや梨子花 カイヤ 延之

半解く池の日向や我小齋 ゴメン 南枝

道志とくさしとく後う那 大ソ子 鳥旭

雪のねもぬれ衣やちれきあ雨 大ソ子 艾就

河と指と雪の身しや山斜の長 大ソ子 杉松

松宛ふあれ白柳の長う那 笑言仙 樞耳

閑談社中

日也あけ海岬の船は船市フミフシの交 友と

夜のとほ水は夢ふ似きりノイテの事 松苗

魚肥ノイテくつふは河の柳ノイテの子 麦二

六女ノイテ吹く初く凡の匂ノイテひくれ 其香

果下鳥も華ふ燕ノイテるまぬ花 波美

茶摘ノイテじのや籠ノイテりま京の支 フカフチ世 素粧

梅ノイテと譽てとさ如小 豆 其水

海を返や船もかこく船の船 如鳥

伐株の傷ノイテりさひや様をいふ 松雪

榊ノイテも春うゑ餘や杵の音 深志

南薰社中

濁炭の歌ノイテおうさや福やノイテ 徳富

百ノイテのこは積者のさきやうノイテのあ 文友

蓬萊の重ノイテきまるとりノイテの家を 多楽

春はノイテあけくちノイテ凡情や春の香 后乐

ヨミナラシ

山里ふむ智月山志交うれ
 一上坊
 日の柳志延ふ法あを柳子
 雀仙
 炉の炭るあちくすも柳初物
 如松
 暖ふのあふふれ小端う那
 其孫
 為るあまふれ試るる月 朧
 柳希
 冬う柳子やねふのあふふれ月
 己未

大港社中

留のきとありのくくく郷月
 南光堂
 打舟

古舞やまふくくくく柳る雪 前ハミ ち家
 雪れるくくくくく柳る雪 前ハミ 法皮
 書ふくくくくく柳る雪 前ハミ 其無
 とくくくくく柳る雪 前ハミ 吐月
 柳るくくくくく柳る雪 前ハミ 其春
 掛朝や日出ふくくくくく柳る雪 前ハミ 就河
 門柳了あふ家あくくくく柳る雪 前ハミ 其己
 催公井や柳飛漢うて柳る雪 前ハミ 南江

鮮ゆるきま川わこくもるこり
其尾もかきもんこの柳か
弱繫くれとれの山櫻のれ
鶯の丘おきまをさるる鳥
河津もみこりまろり茶市
紐を解くわのおやまこり
と心
池鏡
自象
和芝
らあ
微笑
仙

魯松翁
魯松翁の世に
山の内はひこり

歌名録

さうきとて齊のちを暮る湯のれ 音堂貫主 吐花
松のちをれを芽とちを柳のれ 山内律師 松窓
みこりまの山を近也水を音 三 三花
裏の糸似懸もも芽のふ 城府武門 壺友
叱らぬと河家出さるり何孫賣 旭 旭松
落の芽や燈あふつる露の風 鳥 鳥水
ましと人如歌ふる麻の子 塔 塔園

松々京下料うたははるし来、
 卯のむや白にて流の水をみ、
 牛房川や整ちる水寺男、
 白河や那牛此類のそふふ、
 暖きや中河あつちゆめ、
 股刺ぬ蟻ふ目あつちね、
 公田の通しし流やしろ月、
 鳥羽玉乃雲をとらね水と梅、

宿毛 魯三
久保 眠子
柿木山 貫三
左川 竹露
 素悠坊

新やる小凍解まあは運り来、
 この里ふ家、居りる年月雪、
 きのふ秋葉の葉を流やまの山、
 居る極の味腸後やあまひか、
 清きくぬ里しそなふ月夜舟、
 骨とれる道なき破糸ふ家ふ、
 牧星のこつ四つ入くち籠か、
 柿可所存の種とて結しき李、

世 如石
戸波 光塵
高岡 洒薙
オクウラ 環之
夜須 霞舟
 曲全
 一瓢

初夢やとるまゝ高き不この山、吐風
ナワリ 旭山
 世と軽う家小家らるしきふ
アキ 樂之
 涼しあれ物のかしらや雪の裏
ワジキ 干松
 七種や指折く入る籠の底
 卯東風や戦くつる門如松
キレモト 琴松
 空返ふ杉の本まやふくまは
赤岡 万故
 掛乞の女もくくり衣小路
鶴仙
 兼石落らや山吹らる下流、
 知還

夕魚や牛飼家の小ぢる酒、
ノイチ 如氷
 長き初やまんまといけを引てけ
山田 其舟
 権佛の指さるをや本とまは
廿枝 烏石
 春日照れ納涼や麻も草並
青竜寺主 龜毛
 苗代や黙りく暮れあし魚
スサキ 沙汀
 白妙の富さを目ふく通る見
 花のあまの甲もまはれあはれ
 敷の家ふ只一あり落の葉
可郷
 旭扇

寂よりも華ふ淋きなる事子姪亭 青宇
 根屋小好陰 巧イ 初 櫻 吳仙
 ちりりと舞のまゆく 海イ 知伯
 海苔のまゆ 海平の家名イ 里風
 細作此細と徳とぬ暑イ 月池
 明ふ此波ふまイ 月園
 松一本力わすイ 萩里
 手形ふらふらイ 二流

一本の櫓ふらふイ 醒石
 重きねと月さうイ 徐應
 夕満く月のまイ 貞甫
 帯ふも残さイ 松和
 新氣の華りイ 昇六
 雅うひも珠イ 州化
 思ひく舟あイ 有石
 初まや梅イ 一貫

三 欽古
 野市
 五 遊
 父ヨラジ
 鏡川
 田村
 三 笑
 三 鼎
 福書也

他邦文通

柳 越后村上 翠平雨
 旅 備岡山 夢為坊
 舟 周防柳井 月畝
 帆 通津 里桂坊
 杖 阿久野 其隆
 坂 大里 雨聲
 其 朝

可憐な露の人の心は麻の如
尾張 波津坊
 ちりねの根も沈む種の色
越前野末 若水
保田
 二の春も小葉登程のや時鳥
長岡井 森志
 並にくはるに同くはる田おれ
富 一
 七種を揚上人の心もさるる
富 松声
 若水や不易の海文もさるる
出雲 一甫
 善文のや秋菊の心もさるる
出雲 春水

三の輪組は保不草種撰ふり
越前 汀柳
 春のや十日さるるのおの心
越前 伴也
 浮く出く月下もさるる種の子
江戸 里真
 蓋もさるる心もさるる心
美濃領家 古遊坊
 白鷺の泥も汚れぬ心
大垣 石芝
 子規もさるる心もさるる心
大垣 花賞
 項へもさるる心もさるる心
多良 梅居
 小里もさるる心もさるる心
多良 鳳杖

揚もも夢のこゝろ不^{高田}雲雀
 多^{五ノ里}之か歌あうり^{下サカ}多州の月
 暖き日や半ふおろく^{吉川}ら你地是
 矣^{喜楽坊}あうり物お^{喜楽坊}うりやあうり如

扱也一好至に喉^扱下婦人
 扱菴

性年求の首一黄鶴園師表きの文を永く
 不^扱飛してい^扱この^扱真隆の術を執りて
 但^扱後^扱了^扱魯松菴師の^扱龜命あり予^扱天京庸也
 日^扱て未^扱そ^扱急^扱不^扱尚^扱ら^扱佐^扱多^扱海^扱臟^扱愧^扱か^扱り
 社^扱友^扱の^扱人^扱の^扱進^扱め^扱ふ^扱ま^扱じ^扱く^扱も^扱ま^扱の^扱不^扱可^扱あ^扱ん^扱な
 呼^扱鳴^扱き^扱く^扱く^扱も^扱謹^扱々^扱其^扱令^扱に^扱志^扱た^扱り^扱し
 扱^扱

あり一^扱れ^扱う^扱る^扱の^扱恩^扱や^扱ほ^扱連^扱る^扱月
 是^扱同^扱坊

嘉永三庚
 戌と人日

集冊書林

京四條寺町東入

近江屋利助

蕉門御摺物所

此は又次牙出末次上り也

京四條寺町東入御藤町

湖雲堂近江屋利助

